



自衛隊栃木地方協力本部

さくら医療福祉専門学校・さくら看護専門学校合同の学校祭で広報展 ～専門学校生が腕立て伏せに挑戦～



学生に説明をする加藤本部長



車両展示の様子



賑わいを見せる自衛隊ブース様子

報で活動していく」としている。

大田原地域事務所は、「今後も、学校との連携を強化し、地域密着型の広報で活動していく」としている。

悔しさを滲ませるとともに、自衛官の体力の凄さに驚いていた。開始とともに徐々に増えてきた見学者からは、参加者4名に大きな拍手が送られるなど、大きな盛り上がりを見せた。

救急救命科学生が「腕立て伏せ勝負」を提案し、自衛官、救急救命科学生4名での勝負が行われ、中央即応連隊の若い隊員の勝利に終わり、勝負に参加した学生は、「勝ちたかったです」と、悔しさを滲ませるとともに、自衛官の体力の凄さに驚いていた。開始とともに徐々に増えてきた見学者からは、参加者4名に大きな拍手が送られるなど、大きな盛り上がりを見せた。

自衛隊栃木地方協力本部大田原地域事務所（所長 高井一陸尉）は、9月21日（土）、栃木県さくら市に所在するさくら医療福祉専門学校・さくら看護専門学校合同で行われた学校祭において広報展を行った。
さくら医療福祉専門学校は、臨床工学科、介護福祉科、救急救命科からなり、さくら看護専門学校は、看護学科からなる専門学校であり、特に救急救命科においては、例年、受験者がでるなど、学校との関係は良好である。また、介護福祉科においては、海外留学生が多く在籍している学校である。
当日は、中央即応連隊（宇都宮）の支援を受け、軽装甲機動車と偵察用オートバイを展示した。学生たちは自衛隊車両の頑丈さに驚き、普段は目にしない自衛隊の特殊車両に興味を持った様子で、記念撮影をするなど楽しんでいった。自衛隊募集ブースにおいては、加藤本部長も視察に訪れ、専門学生に自衛隊について説明する一幕もあった。また、救急救命科の学生たちがダンボール戦車を作成し、来場した子供たちに大好評であった。



学生が作成した段ボール戦車



『腕立て伏せ勝負』の様子